



印刷課オペレーター
榑橋 啓太氏
「K-サプライの色替え洗浄補助剤は、洗浄効果が強力で、色替え洗浄時の作業負担を大幅に軽減してくれています」



製造部印刷課課長
川田 政次氏
「K-サポートは、電話対応やスケジュール相談に関して、明確な返答をしてくれて、非常にいいと思います」



製造部副工場長兼工務課課長
鈴木 信一氏
「さまざまなサプライ品をテストした結果、KOMORIのK-サプライを選びました。サポートも含め、安心感があります」

リスロンG37とK-サプライの組み合わせの効果
H・UV L(LED)搭載リスロンG37によって、うちわ製造の効率はどのようにならったのか。鈴木副工場長は、「うちわは、4色12本の仕事です。導入前は、菊全4色機と菊半4色機2台を使い、4色刷った後に2色を通す、2回通しで行ってました。効率と段取りの改善を図るため、5色機を選定しました」と5色機にした背景を語り、導入効果を次のように話す。

「うちわ製造は、5月から8月に集中し、短納期で大量に仕上げる必要があります。当社の遅れが、後工程である貼りをされるお客様を待たせてしまう状態。従来機では、2色が完全に乾いていなくて断裁時にくっついてしまうなど、後工程に支障がありました。ところが、H・UV L(LED)搭載のリスロンG37によって、4色12本をワンパスで行い、そのまま後工程に移れるようになりました。パウダートラブルからも解放され、その他の印刷物における折り加工や製本加工でも、問題の発生がなくなりました。この好調な要因の一つには、K-サプライを多く採用していることにもあります」
H・UV L(LED)インキ、KGG914に加え、インキローラーメンテクリナーや色替え洗浄補助剤、湿し水など、多くのK-サプライを採用している。鈴木副工場長は「K-サプライインキを使ってみたら、立ち上がりが非常に早く、他のK-サプライにも興味を持ちました。プランケットの着肉性やプラン切れがよく、すぐに濃度が追従してきました。他のメーカーと比べて、こんなに違うのかと驚きました。浸水処理液は、油性のころから継続して使っています」と評価。
さらに印刷課の川田課長は、「H・UV L(LED)搭載リスロンG37とK-サプライの組み合わせの効果が、さまざまな面で出ています。パウダーがなくなり、上質紙・特殊紙などでも、すぐに裏返してドレンでできるなど、効率が上がりました。また、色合わせがA機能の自動補正によって早くなり、すぐに本刷りがスタートで

きるようになりました。プランケットは網点の再現性が非常に良く、インキッポローラークリーナーも、インキ汚れをきれいに除去できて、素晴らしい商品です」と、作業の効率化と現場の負荷低減を語る。
KOMORIとの改善活動稼働率10%アップの効果
現在、香川印刷は月に1回のペースでKOMORIと改善活動を行っており、静電気防止のために「e-Mist(微粒子加湿型静電気抑制装置)」を導入するなど、さらなる効率化と負荷低減に取り組んでいる。鈴木副工場長は「KOMORIに、改善したい状況を見せてアドバイスをもらっています。KPI、コネクト(KOMORIソリューションクラウド)も活用し、各工程にかかっている時間を把握することから始め、印刷工程をいかに改善できるかを、常に検討しています。改善活動によって、機械の稼働率はすでに10%向上しました」と、手応えを感じている。
香川印刷は2020年、県より「香川県中小企業BCP優良取組事業所」に認定された。上林社長は、「H・UV L(LED)があるのは、四国で当社だけ。H・UV L(LED)指定の仕事も増えてきています。当社の行動指針は挑戦と創造と信頼。創業以来、お客様からの信頼を何より大切にしてきました。リスロンG37を今後の戦略の軸にし、H・UV L(LED)の特長を最大限に生かし、2芸に秀でること、お客様のさまざまな期待に添えていきます」と展望を語った。

H・UV L(LED)機の導入でシナジー効果を高める

「親会社であるずや(株)も当社も香川県に本社があります。同県丸亀市は地産産業としてうちの全国生産量の9割(1億本)を占めると言われており、うちわ完成品メーカーが集積しています。ずやでは地場産業支援として約30年前からポリプロピレン製うちわ骨の製造を開始しました。丸亀を中心としたうちわメーカーに骨の供給をさせていただき、現在では年間6000万本を生産するまでに至りました。香川印刷(株)とM&A検



代表取締役 会長兼社長
上林 幸則氏

「導入後の慣らし運転時などでも、KOMORIは頼もしかったです。KOMORIにしてよかった」

香川印刷株式会社
リスロンG37とK-サプライの組み合わせで作業効率向上とオペレーターの負荷低減を同時に実現。

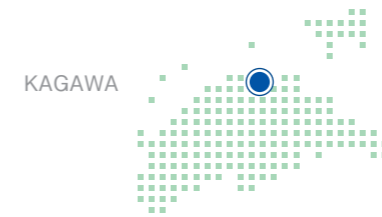
1948年創業の香川印刷株式会社は、チラシやパンフレット印刷に加え香川県の地場産業でもあるうちわの印刷などを手掛け、地域とともに成長してきた。2017年、うちわ骨の製造も行う、仏壇仏具製造卸小売のずや株式会社とのグループ会社となり、新スタートを切った。2019年には、四国初のH・UV L(LED)搭載リスロンG37(A全判オフセット枚葉印刷機)を導入、多くのK-サプライを採用している。その背景と効果について、上林幸則会長兼社長、製造部副工場長兼工務課課長の鈴木信一氏、製造部印刷課課長の川田政次氏、オペレーターの榑橋啓太氏にお聞きした。

討のご縁をいただき、『これは必ずうちわメーカーの力になれる』と直感しました。骨の受注とワンストップで印刷物のご相談もいただけ、県内での印刷、納品とスピーディーに対応できるようにになりました」と、M&Aによるシナジー効果を語る上林社長は、2020年6月から香川印刷の会長兼社長も務めている。
2019年には、四国初となるH・UV L(LED)搭載リスロンG37(A全判オフセット枚葉印刷機)を導入した。背景には、印刷機の老朽化と、うちわ製造の効率化があった。
「グループ会社当初は、油性印刷機

が5台あり、そのうちの2台が30年を経過していました。そこで、印刷の安定性向上や将来の受注増加、ビジネスの発展性を考慮し、3台を破棄して、新台を1台入れることにしました」
社運がかかった新台導入プロジェクトは、何度も協議された。その結果「印刷の圧倒的な時間効率の良さ」「印刷の仕上がりが」「後加工への時間待ちの短縮」「新しい印刷の可能性」などの点からUV機に絞られた。「他メーカーも検討したが、技術的な安定性が高く、サービスの体制が抜群に整っていて安心できるKOMORIに決めました」



左：H・UV L(LED)搭載リスロンG37起動式(2019年9月26日)
中：香川印刷では多品目のK-サプライが使用されている。
右：H・UV L(LED)搭載リスロンG37と香川印刷の皆様
「K-サプライでそろえることで、サポートやメンテナンスをより効果的に受けることができます。印刷機の稼働も安定しており、従来機と比較して、1時間当たり1.2台多く刷れています」(鈴木副工場長)



本社 / 香川県高松市郷東町792-9
高松印刷センター内
<http://www.kagawa21.com/>
TEL / 087-882-3338

